

# こう げい たて ぐ 工芸建具

き かがく も よう  
幾何学模様が織りなす日本の技

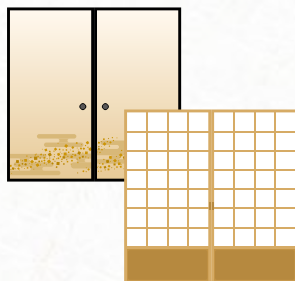
かわむら ひろゆき  
河村 浩幸

小さな頃からものづくりが好きで、職業訓練校の木工科に通ったのち、木工家具の職人の下で修行を積む。現在は、先代が創業した建具屋で、建具職人として働いている。



## 建具とは

日本の伝統建築の特徴でもあるふすま・障子・間仕切り戸など、和の空間と空間の仕切りのことです。見た目が美しいだけでなく、閉じたままでも光を部屋に取り込むことや、通気性を確保することが可能で、機能的にも優れているのが特徴です。



## 装飾としての「工芸建具」

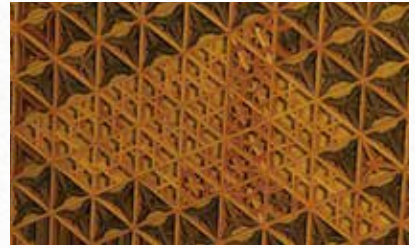
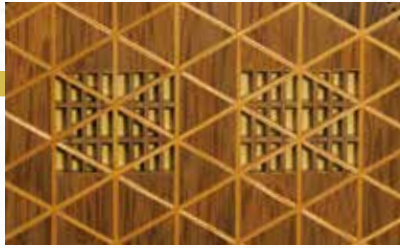
小さな木片を組み合わせることで、障子や欄間などにさまざまなデザインを施したものを工芸建具と呼んでいます。



## 建具職人の「組子技術」

工芸建具の魅力を生み出しているのが「組子技術」です。

木の色や形を変えながら、小さな木片を組み合わせて、さまざまな模様を描き出していきます。その作業では、釘などを用いることなく、多くを手作業で行います。職人の繊細で緻密な技術から生まれるデザインは、絵画や幾何学模様など、思わず目を奪われるようなものばかりです。



## 建具ができるまで（一例）

- ① 手やパソコンで図面を書き、それに合わせて材料となる木を木目や色の組み合わせまで考えながら集めます。
- ② 材料に「ほぞ切り」と呼ばれる、木組みを固定するための切り込みを入れます。
- ③ やすりなどで表面の仕上げをしてから丁寧に組み立て、できあがった建具を建物に取り付けます。



すべての寸法を正確に計算し、木と木をピッタリはめるためには、高い技術と豊富な経験が必要!

# 職人さんに聞きました！

**Q** 建具を作るうえで、大変なことはなんですか？

**A** もちろん加工も難しいですが、どんなものを作るかというデザインを考えることや、木の種類を使い分けることで表現する色遣いづかの部分は、非常に難しいです。また、木材は周りの湿度の影響を大きく受けます。湿度の低いときに木を組むと、湿度が高くなったときに膨張して伸びてしまうのですが、それが大きいものになればなるほど伸び縮みが大きくなってしまいます。組み終わった後の締まり具合を考えて組み立てるためには、経験や知識が必要です。



**Q** 伝統を受け継ぐうえで、心配していることはありますか？

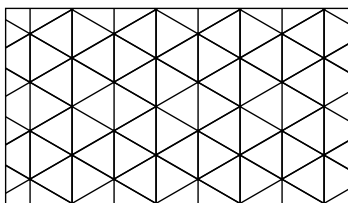
**A** 今は機械化が進んで、木の加工技術はとても向上しています。一方で、手作業による昔ながらの工法や技法が未来へ受け継がれていくのか心配ですし、またそれをどうやって伝えていけばいいのか考えています。また、建具は一般の方からの認知度が低いと感じているので、建具のことをもっと知ってもらうために、小学校の出張授業に出かけたり、中学生の職場体験を受け入れたりもしています。

非常に多彩で奥が深い組子の技術は、少し知るだけで「面白い」と感じてもらえるのだそうです。そんな工芸建具の魅力をたくさんの人に伝える使命を感じていると河村さんは語っています。



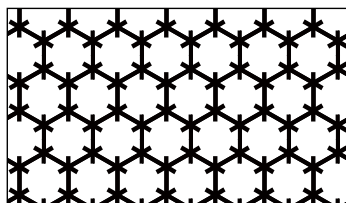
# さまざまな組子の種類

たくさんの組子の種類の中から一部を紹介します。



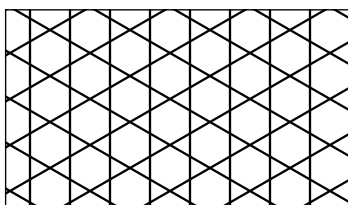
みくで  
**三つ組手**

三方向からなる格子を組んで作られる模様です。亀甲などの模様を作り出す場合の基礎となります。



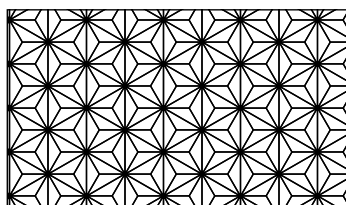
つのきっこう  
**角亀甲**

三つ組手から六角形内の継ぎの木を切って作られます。角を出しているように見えるため、つのきっこう角亀甲と呼ばれます。



かごめ  
**籠目**

編み籠の目のようになることから籠目と呼ばれます。鬼が嫌うという言い伝えから、浴衣にも用いられた柄です。



**麻の葉**

形が麻の葉に似ていることからついた名前です。麻は丈夫でまっすぐ育つことから、子どもの産着の柄にも使われます。